

水城と大宰府都城

Mizuki Bank and Dasaiфу Capital

小 田 富士雄 (おだ ふじお)

福岡大学名誉教授

1. はじめに

今年の水城築堤から、また来年は大野城・基肄城築城からそれぞれ1350年を迎える。福岡県や関係市町あい集うて住民交流を深める目的のもとに、史跡の保存・整備・活用事業が実施されようとしている。私たち学術関係者で組織している大宰府史跡整備指導委員会もこの事業に関与して指導・助言を求められて定期的会合を進めている現状である。

水城は国史跡大宰府史跡の一つを構成している。大宰府政庁跡（通称都府楼）を中心に往時の周辺地域には碁盤目状の区画地割（条坊制）が展開した。これを囲む陰山を利用して山城や低地をつなぐ土塁（水城）で外郭を取り囲む大宰府都城が形成された。今回は水城や山城などを中心に大宰府都城の概要や学術調査の現状について紹介したい。

2. 西日本軍防体制の形成

663年8月、韓国扶余（百済都城）の白村江で百済・日本は唐・新羅連合軍に大敗して、にわかに西日本は連合軍侵攻の脅威にさらされることとなった。我が国では翌年から直ちに軍防体制の整備に着手した。

664年筑紫に大堤（「水城」）を築く。665年百済高官の指導で長門国に1城を、筑紫国に2城（大野城・基肄城）を築く。667年高安城（大和国）・屋嶋城（讃岐国）・金田城（対馬国）を築く。698年大宰府に大野・基肄城・鞠智3城を修理させるなど水城や山城の築造・修理などの記事が史書にみえる。また一方では664・665年と唐使が来朝して平和外交に転じ、668年には新羅使も来朝して、これら防衛施設は本来の使用を果たさずに終わった。大陸側では唐と対高句麗・新羅戦争状態となり、日本とは友好関係に持ち込むことが得策と考えられたからである。

我が国は白村江の敗戦原因が唐・新羅の強力な中央集権の律令国家体制に対して、地方豪族（国造）によって編成された寄せ集められた国造軍構成という国家段階の相違にあったことから律令国家体制を確立することが急務であり、まず中央政府の出先として外交府としての大宰府都城の外観整備が急がれた。水城や山城の建設は大

宰府都城の外郭を構成する軍事施設であり、金田城（対馬市）や鞠智城（熊本県）はさらにその北と南にあって第2次防衛網としての固めであり、瀬戸内の屋嶋城（香川県）を経て、首都の関門高安城（奈良県）に至る。

このようにみえてみると水城はそれ単独で機能するものではなく、大野城・基肄城らと連続する大宰府を囲む山並みの天険とともに外郭を構成する軍事施設であったことが知られる。大宰府都城の建設はまず外郭施設から取りかかり、大宰府都城や条坊制の内郭まで完成したのは8世紀前半であった。

3. 水城と山城

水城は福岡平野の南奥、東四王寺山、西背振山地の間をつなぐ全長1.2 km、高さ10 mの大堤で、福岡側に幅60 mの濠を設けている。大堤の両端には東門・西門・御笠川の貫通箇所は欠堤部で洗い堰を設けた。また、大堤下を直通する通水溝（木樋）や、版築積土工法の基底部には枝葉を集めた敷粗朶工法がみられ、現代の土木工法の源流が7世紀にまでさかのぼることが確かめられて我々を驚かせた。

政庁背後の四王寺山頂には大野城が築かれた。随円形状に巡る山稜圍繞地形を利用した土塁・石塁の全長は6.5 km、南端と北端は二重土塁となり、総延長は8.6 kmに及ぶ。確認された城門は9箇所、場内7箇所に礎石建倉庫群があり、総数70棟を数える。なかでも主城原地区には官衛風建物や古瓦があり、主城司の在所であろう。

大宰府政庁の南8 kmの基山山頂には基肄城が築かれた。大野城とよく似た地形の利用によって土塁・石塁を巡らし総延長3.9 kmに及ぶ。北・東北・南3箇所に城門があり、なかでも南門跡石水は現存長26 m、高さ8.5 mで、大型水門を伴い壮観である。現在復元整備中である。城内12箇所に礎石建倉庫群があり、総数40棟を数える。東側のⅢ群「大礎石群」長舎構造の瓦葺きで、中枢的機能を有するものである。

今回は水城を含む大宰府史跡群について、現段階における調査成果の紹介に加えて将来の課題や活用面にも触れてみたい。

(原稿受理 2014.8.25)